

第3回 市一括研修会レポート

9月17日（火）、取手市福祉会館講座室において「第3回 市一括研修会」が行われました。各小中学校から学校運営協議会の委員の方々、計94名が参加されました。研修の様子は、今後オンデマンド配信いたしますので、当日参加できなかった委員の皆様は録画された動画を視聴していただければと存じます。

さて、第3回目となる今回の研修会では、これまで同様、文部科学省 総合教育政策局にお勤めの、CSマイスター安齋宏之先生に講師をお願いし、【学校評価を生かした「地域とともにある学校」づくり】というテーマで研修をしました。サブ・テーマの「自己評価と学校関係者評価の進め方」に関する内容を中心に、研修を通して学んだ内容やその様子をお伝えします。

「学校評価は、子どもたちがよりよい教育を享受できるよう、その**教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指す取組**」を指します。

学校は、学校長の教育理念をもとに、児童生徒や地域の特長、課題を踏まえて教育目標や方針を決めて実践します。様々な教育活動を通して児童生徒の健全な育成を目指していくわけですが、それがどんな成果を上げたか、もっと必要なことはなかったのか、こうしたことを「点検」し、すぐできること、次年度「改善」していくことなどを明確にしていくことが求められています。これが、「学校評価」を行う意義と目的に当たります。

学校評価と自己評価

「学校評価」の基本は、学校自身が自分たちの活動を評価することです。それを「自己評価」と言います。自己評価は、「校長のリーダーシップの下で、**全教職員が参加し、設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さについて評価を行う**」こととされています。この自己評価を行う上で大切な資料とされるのが、「**児童生徒」「保護者**」対象の**外部アンケート調査**です。また、これに合わせて、「**教職員**」自らもアンケート調査を行っています。学校はこのアンケート調査も活用して、自分たちの取組をできるだけ客観的・総合的に「自己評価」しています。

教育目標

具体的活動

- ☆授業 ☆特別活動
- ☆学校行事 ☆その他

分析・検証

- ☆児童生徒アンケート
- ☆保護者アンケート
- ☆教職員アンケート
- ☆成果・課題に関する振り返りと自己分析

自己評価

- ★各観点ごとに、自己評価（ABC等で評価明示）
- ★今後の取組の具体的な計画提示



学校評価と「学校関係者評価」

学校評価には、「自己評価」の他に、努力義務として「学校関係者評価」、さらに必要に応じて「第三者評価」が位置付けられています。「学校関係者評価」とは、「保護者、学校運営協議会委員、地域住民、関係団体の関係者、接続する学校の教職員など」が評価委員となり、「自己評価の結果について評価する」ことを指します。つまり、学校がまとめて示した「自己評価」について、それが適切かどうかを評価するということです。

「第三者評価」は「外部の専門家による評価」のことで、教育関係の専門家に依頼して学校運営に関する評価をしてもらこととなります（法令上の義務はない）。

※コミュニティ・スクール事業が導入される前は、市では「学校評議員」に「学校関係者評価委員」を兼務してもらい、「学校関係者評価」を年度末に行っていました。

今回の研修では、上記の内容に加え、さらにその具体的な進め方や評価のしかたなどを安齋先生から教授していただきました。



学校評価に関する講義の後には、「ミニ演習」を行いました。安齋先生がご用意くださった学校の「自己評価」のサンプルを使って、①「自己評価の結果について、その適切さを評価する」、②「改善に向けた取組の適切さについて評価する」という2点について、各学校運営協議会委員の皆さんは6人前後のグループを組んで演習しました。

演習用サンプル

重点目標

【だれにでも気持ちのいいあいさつをする子の育成】

実践事項

- ①あいさつ運動の継続
- ②教科・道徳・特別活動での意図的・計画的・継続的指導
- ③学級会と児童会における子ども主体の活動

サンプルとして示された左のような「自己評価」に対して、委員の皆さんは自分の考えを付箋紙に書き、それをグループで共有しながら、「学校関係者評価」の演習をしました。文章で示された自己評価の結果やその根拠について、真剣に話し合いが行われました。

真剣な演習の様子



第4回一括研修会は
11月19日（火）に
実施予定です

市HPもご覧ください

